

折々の銘 2

【諫鼓鳥】 かんこどり

明けましておめでとうございます。

去年は本当にお世話になりました。皆様のお陰で当掲示板を続けることができました。

今年も、お付き合いいただきますよう宜しくお願い申し上げます。

さて、皆様のお手元へは道具屋さんから酉年に因む茶道具のカタログが送られていることと思います。

その中の香合・茶碗などに太鼓の上に乗った鳥の意匠があるのにお気づきでしょうか。

この太鼓が「諫鼓」と呼ばれる太鼓です。敢諫の鼓・朝鼓・登聞鼓ともいいます。

この太鼓と鳥は山車の頂にも見られお馴染みですが元は中国に起源があります。

・堯は敢諫の鼓を置き 舜は誹謗の木を立て 湯は司直の人有り 武王は戒愼の鞀を立つ

『淮南子』主術訓より

[げうはかんかんのこをおき しゆんはひぼうのきをたてて たうはしちよくのひとあり ぶおわうはむかいしんのたうをむたつ]堯は諫めの太鼓を置いて直訴を受け入れ、舜は誹謗の木を立てこれに善否を書かせ、湯は司直の役職を設けて過ちを正し、武王は戒愼の振り太鼓を立てて振らせた。

堯・舜・湯・武王はいずれも伝説的聖天子の名です。諫鼓は天子が民の諫言を聞こうと朝廷の門外に設置された太鼓です。打てば如何なる人も施政に対する意見が許され、役人が天子に取り次ぐことが約束されていました。

中国では封建の世にあつて民の声に耳を傾けることは為政者のあるべき姿とされていました。

江戸時代、享保の改革で知られる目安箱はこの精神を取り入れたものです。

他見を許さず、将軍吉宗が自ら開封したといひます。小石川養生所や町火消の設置などに効がありました。

諫鼓に鳥がとまるということは太鼓を打ち直訴する者がいない平和な世を意味します。

諫鼓鳥は平和を表す意匠なのです。同様の意味に「諫鼓苔むす」という言葉があります。

諫鼓はかつて長安や洛陽の都に本当に設置されたようです。しかし、諫鼓は実際に活用されたのでしょうか。

・諍臣は口を杜ぎて冗員と為り 諫鼓は高く懸かりて虚器と作る

『采詩の官』白居易より

[しやうしんはくちをふさぎてじやういんとなり かんこはたかくかかりてきよきとなる]

この詩は世のために天子が自らを戒めることを願って書かれた詩の一部です。

「官僚は口をふさいで無駄な人員となり、民の直訴を告げる諫鼓も高く吊られ形だけの無意味な道具となりはてた」と、かつての国が滅んだ原因を述べています。

あまりにも今に当てはまり怖い気がします。この詩は諫鼓の実態を伝える史料なのかもしれません。

何れにしても、平和を意味する意匠として諫鼓鳥は酉年の初釜に相応しいですね。

<http://www.morita-fumiyasu.com/>

~ Copyright (C) 2011 ~私の書齋~ 森田文康. All Rights Reserved.~